

# 田中藤雄

たなかふじお

昭和7年(1932年)

榎太生まれ

昭和20年(1945年)

榎太で終戦を迎える

昭和22年(1947年)

榎太から引き揚げ、父の故郷である秋田県・能代市の10キロ田舎に移り住む

昭和23年(1948年)頃

大工の仕事を始める

昭和31年(1956年)

妻孝子と結婚

昭和33年(1958年)

田中組 田中工業所(三五工務店の前身)を創業

昭和48年(1973年)

株式会社三五工務店創立

平成2年(1990年)

三五工務店代表取締役会長に就任



今から60年ほど前、田中藤雄、孝子夫妻が、二人の子を育てながら住んでいた借家。  
今も北30条西6丁目にある。

人に尽くせ

人に喜んでもらえ

昭和33年に父・田中藤雄が立ち上げた田中組は、三五工務店と名称を変え、平成30年に創業60年を迎えました。そして、昨年は父の米寿祝いも行うことができ、この数年は田中家にとっても当社にとっても節目となるが続いています。

考えてみますと、田中家は現在、父と私、三五工務店を継いだ息子の裕基、そして孫の藤基の四世代が揃っていることになりました。このように四代が元気で揃っているということ、また会社を60年もの長い間続けてこられたことは、とてもありがたいことです。それも、父がこの会社を創業し、元気で長生きしてくれていることが源にあると感じています。

この頃、父は子ども時代のことや、仕事での出来事・信条について繰り返し話すようになりました。私にしてみれば何度も耳にした話ですが、三代続いてきた当社のことを思ったとき、父の話を記録することは、田中家だけでなく、これから三五工務店に携わる人たちにとっても何か意

## 幼少期

生まれはサハリン、樺太です。親父の藤七は秋田生まれで大工でした。母は昔、看護助手をやっていて厳しい人だった。父はまあ職人としての仕事はきちんとしていたけど、棟梁になれる感じではなかったです。酒もよく食らっていたし。そのぶん母が頑張り屋で、樺太で慣れない農業を始めて家族を支えていました。

樺太に行くきっかけを作ったのはじいさんです。三代目の坊ちゃん育ちだったものだから、親のかまどをひっくり返しちゃって（＝破産して）、それで樺太に行くことになりました。それに親父が付いていったわけです。じいさんは後妻さんを連れて樺太に入ったけど、終戦直後に黄疸が出て、薬もないもんだからこちらで引き取ってほしいと連絡が来しました。それで、8月の暑い最中じいさんをリアカーに乗せて、親父と二人で10キロの道を家まで連れ帰って来たんです。結局、その翌年の2月にじいさんは樺太で亡くなりました。

私たちが住んでいたのは豊原市（現・ユジノサハリンスク）の北10キロの小沼です。私が13歳で終戦を迎えるまでは、日本人のほかにもロシア人や朝鮮人が混在していました。山と川に囲まれていて、海までは20キロくらい。産業は炭鉱があつて、漁業、農業、林業だとかがありましたね。寒いから米は採れませんけど、麦やジャガイモ、大根などの根菜と、キャベツや白菜を作っていました。母親は畑を手に入れて一所懸命やっていましたよ。牛小屋もあつて乳牛を一頭飼っていました。住まいはロシア式のログハウス。暖かくて、冬もストーブを焚いたらシャツ一枚で過ごせました。

終戦までは、暇さえあれば魚釣り。川釣りね。ウイヤマメが釣れました。母の畑もあんまり手伝わないで釣りをしていたな。親が大工だったから建築科に行行って先生に言われて、汽車で工業学校に通っていました。勉強は嫌いだったし、学校の建築の勉強は全然楽しくなかったです。それに、入学した途端に戦争に負けちゃいましたから、学校もたいして行けませんでした。身を入れて建築を勉強するようになったのは、やっぱり自分で家を作り出すようになってからです。

昭和20年に日本が戦争に負けたら、炭鉱にいた朝鮮人たちが私たちの部落にまで来るようになりました。終戦翌年の春にはロシアも攻め込んできて、朝鮮人だとかロシア人が威張るようになったんです。私らは、日本軍が残っていたものや、家の地下室にあったジャ

昭和33年 (1958年)	田中組棟梁独立開業	昭和33年12月	初の巻万円紙幣発行
昭和36年 (1961年)	田中寿広誕生 田中工業所設立	昭和39年10月 (1964年)	東京オリンピック開催
昭和39年 (1964年)	北35条西8丁目自宅兼事務所新築	昭和45年3月 (1970年)	日本万国博覧会(大阪万博)開催
昭和48年 (1973年)	株式会社三五工務店設立 資本金200万円	昭和47年2月 (1972年)	札幌オリンピック開催
昭和53年 (1978年)	田中寿広 入社 現場作業員として仕事に従事 田中ビル新築(現在の社屋)	昭和58年7月 (1983年)	沖縄返還
昭和63年 (1988年)	一級建築士事務所開設 高気密・高断熱住宅初施工 新在協設立理事就任	昭和63年3月 (1988年)	ファミリーコンピュータ発売
平成2年 (1990年)	中小企業家同友会入会 北青会入会(工務店二代目の会)	昭和64年1月 (1989年)	青函トンネル開通
	田中寿広 代表取締役就任 田中藤雄 取締役会長就任	平成1年1月 (1989年)	天皇崩御
		平成11年11月	消費税込導入(3%) ベルリンの壁崩壊

平成8年 (1996年)	特定建設業登録 資本金2000万円	平成8年5月	サッカーリーグ発足
平成10年 (1998年)	北34条西10丁目自宅新築 創業40周年謝恩祭初開催	6月	皇太子殿下 小和田雅子さんとご結婚
平成13年 (2001年)	激動の年会社が生まれ変わる大改革 ほとんどの社員が退職する	平成7年1月 (1995年)	阪神淡路大震災
平成14年 (2002年)	VRS(パーティチャルリアリティ事業)リアルスタジオ (実寸大住宅展示場)が札幌市琴似にオープンその後全国展開を目指す 商標登録完了「幸・夢・店」「マジックトンカチ」	平成9年4月 (1997年)	消費税率5%に引き上げ
平成15年 (2003年)	株式会社ドリホ(ドリーム&ホープ)設立	平成10年2月 (1998年)	北海道拓殖銀行倒産
平成16年 (2004年)	リコハウス事業部設立(リーズナブルコンセプトハウス)	平成12年1月 (2000年)	長野冬季オリンピック
平成17年 (2005年)	宅地建物取引業者登録 売上高10億円を突破	4月	「ハッピーマンデー」スタート
平成18年 (2006年)	小規模三五宅地分譲事業を実行する初の社員大工入社 社屋1階にウエルカムサロン完成	3月	有珠山23年ぶり噴火
		11月	介護保険制度スタート
		平成13年9月 (2001年)	アメリカ同時多発テロ事件
		平成14年5月 (2002年)	JR東日本「SEAS」導入
			サッカーW杯日韓大会